

大英帝国の歴史と文化に ふとこ 懐の深さを思ふ



堀地 紀行
HORICHI Noriyuki

国士館大学工学部教授

機関紙編集委員の堀地紀行です。大学の在外派遣研究制度で、4月からロンドン市立大学に赴任しています。機会を与えていただいたので、まだこちらに来て日は浅いのですが、日常の観察や体験などで、ちょっと気が付いたことなどを、ご報告したいと思います。

ロンドンの市街地図を見ると、サーカスやスクウェアといった広場が目にとまります。

サーカスはサークルと同意語で、円形広場のロータリーを指しています。皆様よくご存知のピカデリーサーカスや、オックスフォードサーカスなどは、いずれも繁華街に位置し、地下鉄の駅名にもなっています。ではなぜ、円形のロータリーかと言えば、博物館に展示された19世紀ビクトリア時代のロンドンの写真を見ると、その理由がはっきりと判ります。

つまり当時の主要な市内交通機関は馬車であり、馬は急発進、急停車が困難で、そのため方向転換には回転広場としてのサーカスが必要だったこととなります。そしてその広場では道化や曲芸などが人々をなごませたりしていたことから、私たちがすぐに連想する曲芸団のサーカスに繋がります。

ちなみにピカデリーサーカスには6本の道路が交差し、車社会で中央の噴水の位置はサイドに移動したものの、人と車の渦は、変わることなくめったに途切れることはありません。写真-1はピカデリーサーカスの様子です。信号機のコンパクトなことにも気が付かれると思います。

ではもうひとつのスクウェアを見てみますと、こちらは言葉通り四角形の広場となっています。サーカスの数に比べ、さらに多くのスクウェアを目にすることができます。シネマ街のレスタースクウェアや、米国大使館にも近く、高級ブランド店などがまわりを取り囲むパークレースクウェアなどが有名です。

現在は、周囲を一方通行とさせて車の方向転換の場としての機能も持ち合わせていますが、もともと広場や公園を目的としていて、貴族や豪商による屋敷の寄付が多いようです。

そのため、樹齢を重ねた巨木も多く見られ、こうした巨木の枝ぶりを眺めていると、絵本やディズニー漫画の中の木の精霊を思い浮かべるのも不思議なことではありません。ビジネスマンやOLなどが、午後の一



写真-1 ピカデリーサーカス



写真-2 パークレースクエア

休みをしている光景も見受けられます。(写真-2)

イギリス人はヨーロッパの中でもよくお酒を飲む人が多いそうで、ブラジル人のタクシー運転手いわく、一にドイツ、二にイギリスで、三がポルトガルだと言っていました。

ブラジル人は酒も飲むけれど、アルコール燃料として賢い消費をしていると、なにやら自慢していましたが、ワールドカップの第一ステージは1位ブラジル2位日本で一緒に通過できるだろうと、こちらも余裕たっぷりの上機嫌でした。

話が少しそれましたが、お酒の話の続きで、イギリスといえばパブを思い浮かべる方も多いと思います。このパブがロンドン市内に1万軒、イギリス全土に8万件ほどあるそうで、ロンドン市民700人に1軒の割合で、点在することになります。金曜の晩などは外まで客が溢れていることもしばしばです。

このパブの屋号で多く見かけるのが〇〇ARMSという名前です。これは単純に腕を意味しているようで、腕を少し広げてできた分岐点、つまり脇の下辺りに店があり、胴と腕が街路なのだそうで、そうした町並みをARMSと言うのだそうです。

飲み物はビールが多く、苦味の強い英国ビールは常温で楽しめます。

日本人は情報機器、自動車などの製品の良さと、寿司人気も手伝って、非常に評判が良く、一人で飲んでいても、判りやすく気さくに話しかけてきてくれます。日本人諸先輩のご努力を痛感します。(写真-3)

イギリスのスポーツはゴルフ、テニス、サッカー、ラグビーなどわれわれにとっても、身近なものが多いのですが、そんな中であって、クリケットはなかなか日本人にとっては遠い存在に感じられるスポーツの

一つだと思えます。

私がお世話になっている City University London の Prof.Boswell (ボズエル先生) のご好意で、先生が所属しているベッケナムクリケットクラブ (BCC) 創立125年のさらに付属のシネマクラブ (BCCCC) 創立10周年総会、先生はこのシネマの会長で、ここがイギリス人的な楽しみ方なのか、とにかく呼んでいただきました。

映画を見ながら昼餐会を楽しんだ後、日没の9時近くまで、飲んだり食べたり、クリケットの練習をしたりゆっくりと楽しみました。(写真-4)

「おそらくこのような楽しみ方は、日本では皇族の方々が嗜むくらいではないでしょうか」とメンバーに話をすると、「日本人はもっと生活を楽しんだほうがいいですよ」と返事が返ってきました。

このクラブはロンドンのターミナル、ビクトリア駅から快速で10分ほどの住宅地駅 (ベッケナム) にあり、プライベートつまり私有の、40人ほどのメンバーで、テニスコートを含めトータル350m四方の全面芝のクリケット場 (ちなみにクリケットはグラウンド中央で投げて打つ) と5面ほどのこれもローンテニスコートを所有しています。

仮に売れば、最近の地価高騰で、我々一般の日本人には想像外の額のように、イギリスの歴史と文化そして懐の深さを垣間見せて頂いた気がしました。

今回、貴重な紙面をお借りして、ロンドン生活でのちょっと気が付いたことなど気ままに書かせていただきました。機会があれば、またご報告させて頂きたいと思えます。



写真-3 電線地中化されすっきりとしたたずまいのロンドンのパブ街



写真-4 ベッケナムクリケットクラブで筆者クリケットに初挑戦